

[保護者向け]

新生児・乳児ビタミン K 欠乏性出血症の予防法に関する Q&A

2021 年 11 月 30 日

日本小児科学会新生児委員会

この度、当会並びに関連学会・団体との連名で、「新生児と乳児のビタミン K 欠乏性出血症発症予防に関する提言」を公表し、当委員会から「新生児・乳児ビタミン K 欠乏症出血症に対するビタミン K 製剤の現状調査についての補足」を公表いたしました。併せて、新生児・乳児ビタミン K 欠乏性出血症の予防に関する Q&A を作成いたしました。ビタミン K 製剤の内服や取り扱いに関する注意点になりますので、ご参考にしてください。

Q1. 3 か月法の新生児・乳児で、内服ができていない場合（嘔吐してしまった、内服を忘れてしまったなど）の対処方法はどのようにしたらよいでしょうか？

A1. 飲みこぼしたり吐いたりした時は、追加の必要はありません。忘れたときは気づいた時点で飲ませてください。デンマークにおける臨床研究でビタミン K 製剤を少なくとも 9 回以上内服させることで良好な予防効果があったことが報告されています¹⁾。

Q2. 誤ってこぼしてしまった場合は再度もらった方が良いですか。

A2. ビタミン K₂シロップをもらった病院・クリニックでご相談ください。週に 1 回、3 か月まで飲ませるのが基本ですが、人工乳が半分以上の場合は、1 か月健診以降、ビタミン K₂シロップの投与を中止してもよいとされています²⁾。

Q3. 3 か月法でビタミン K 過剰症のリスクはありますか？

A3. 現状においては、ビタミン K 製剤の経口投与によるビタミン K 過剰症は報告されていません。

Q4. 誤って連日服用させてしまったのですがどうすればよいでしょうか？

A4. わかった時点から週に 1 回、曜日を決めて与えてください。現状においては、ビタミン K 製剤の経口投与によるビタミン K 過剰症は報告されていません。

Q5. 1 か月健診時にすべて飲みきってしまっていたのですがどう対応すれば良いですか。

A5. その時点から週に 1 回、曜日を決めて与えてください。ただし、人工乳が半分以上の場合、1 か月健診以降はビタミン K₂シロップの投与を中止してもよいとされています²⁾。ビタミン K₂シロップをもらった病院・クリニックでご相談ください。

Q6. 完全人工乳や混合栄養の場合も 3 か月法を行うべきでしょうか？

A6. 日本小児科学会は、「新生児・乳児ビタミン K 欠乏性出血症に対するビタミン K 製剤投与の改訂ガイドライン（修正版）」で、1 か月健診の時点で人工栄養が主体（おおむね半分以上）の場合には、それ以降のビタミン K₂シロップの投与を中止してもよいとしています²⁾。ビタミン K₂シロップをもらった病院・クリニックでご相談ください。

参考文献

1. Hansen KN, Minousis M, Ebbesen F. Weekly oral vitamin K prophylaxis in Denmark. Acta Paediatr. 2003;92(7):802-5.
2. 日本小児科学会新生児委員会ビタミン K 投与方法の見直し小委員会, 白幡聡, 伊藤進, 高橋幸博, 西口富三, 松田義雄. 新生児・乳児ビタミン K 欠乏性出血症に対するビタミン K 製剤投与の改訂ガイドライン（修正版）. 日児誌. 2010;115(3):705-12.